

いしづかとうげ はんきょういんこう

## 石塚峠の藩境印杭

指定種別：市指定文化財

指 定 日：昭和 62 年 3 月 27 日

所 在 地：釜石市唐丹町字大曾根

制 作 年：西側 元文 4 (1739)年

東側 寛保元(1741)年



天正 18(1590)年、小田原の陣に参陣できなかった大崎・葛西が没落し、気仙郡は伊達領となり、阿曾沼氏は南部氏に従属することとなりました。その後、関ヶ原の合戦の折、阿曾沼氏が滅亡すると伊達領と南部領は接することとなり、藩境は、西は駒ヶ岳から東は太平洋の唐丹湾まで約 130 kmにおよびました。その藩境問題は 67 年後の万治元(1658)年に境を桐が作とし解決され、東側の印杭には、『唐丹村境に印杭立てるにつき書上げ』に「道より印杭まで八尺程」、「栗角高サ五尺程、面六寸厚サ五寸、右印杭根前二四方壺尺五寸ノ浜石ヲ敷上へ檜ヲ壺置キ仕高サ六寸程ニ御座候」とあり、「従是北南部領」と書かれたとあります。現存している西側の印杭には、「従是南仙台領」と書かれており、寛保元(1741)年に建てられた東側の杭より 2 年前の元文 4 (1739)年に建てられた記録が残っています。印杭の設置は両領の古人立会いで行われ、宝暦 13(1763)年、天明 4 (1784)年に杭の建替えについて記録されています。なお、最東端の藩境には境を示す浜境十字刻印があります。

南部領と伊達領の藩境には境を示す藩境塚と印杭がありました。印杭(跡)として現存するのは西側の石塚峠だけで、沿岸の主要道である浜道筋(浜街道)の資料であることから貴重な資料といえます。

昭和 63 年に、



印杭の腐食進行を食い止める目的で、藩境印杭の基礎構造調査、藩境印杭の科学的保存を内容とした調査を岩手県立博物館に委託し、現在保存処理された印杭は釜石市郷土資料館にて展示されています。



藩境印坑調査



藩境印坑（釜石市郷土資料館蔵）